

第7回 選挙区及び定数に関する在り方調査会 概要

日 時：令和2年6月22日（月）14時00分～16時00分

方 法：Web会議

出席委員：（6名）金井利之座長、磯崎初仁委員、岩崎美紀子委員、
大橋正春委員、谷口尚子委員、原田大樹委員

出席者：日沖正信議長

（事務局）湯浅真子事務局長、畑中一宝次長、枡屋武企画法務課長、
袖岡静馬政策法務監、田米正宏課長補佐、長谷川智史主任、
松井祥嗣主任

傍聴者：12名

1 調査

(1) 三重県議会の議員の定数及び選挙区の在り方について

三重県議会の議員の定数及び選挙区の在り方について委員間で協議が行われ、主に次のような趣旨の発言があった。

（選挙区ごとの議員定数の決め方）

- ・ 人口比例は一つの前提である。
- ・ 総定数をまず決めて、その上で、人口や面積等に基づいて配分していくことが基本ではないか。
- ・ 定数を是正しないということは、過去の人口に基づいて定数配分しているといえるのではないか。
- ・ 定数を定期的に見直す仕組みを考えてはどうか。
- ・ 手厚い定数配分を行うのは、人口の少ない地域に限定してはどうか。
- ・ 人口減少が見込まれるからこそ、現在の人口だけでなく、特定の時期の人口も基準に入れてはどうか。

（較差）

- ・ 人口以外の基準を加味するにしても、判例で示されるように、較差は3倍以下に抑えるべきではないか。
- ・ 一人一票制の原則に鑑み、較差は2倍までを基本とすべきではないか。
- ・ 較差を考えるに当たっては、地域を二段階に考え、大枠の地域（例：北部、中部、南部）の中で、それぞれの選挙区間の較差を考えてはどうか。

（その他）

- ・ 全県一区の比例代表制も検討してはどうか。
- ・ 正式な議会の代表にならないにしても、各市町から代表のようなものを出す仕組みがあれば、県議会が人口比例の下で構成されたとしても、人口

の少ない市町の声を生かすことができるのではないか。

(2) 人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について

人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について中間報告（論点整理）を基に委員間で協議が行われ、主に次のような趣旨の発言があった。

（県及び県議会の役割）

- ・ 市町の補完や単に市町の区域を超える広域行政にとどまらず、県域を超えた広域での役割が今後増えていくのではないか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策について、県や県議会がどういった役割を果たすべきなのかという議論はあり得るのではないか。

（議会の代表性）

- ・ 二元代表制の下、知事が全県一区の一人区で選出されること（人口の多い地域の声を反映しがちであること）に鑑み、県議会は必ずしも人口比例のみで定数を決める必要はないのではないか。
- ・ 選挙の活性化（投票率の向上等）という視点は、議会の代表制を考える上で必要ではないか。

2 その他

次回の調査会については、7月28日（火）15時から開催することとなった。なお、開催の方法については、座長に一任となった。